

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 4月1日

事業所名 こどもプラス大阪2nd

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数がスペースに見合った運動ができるようにプログラムを工夫しています。	事故や怪我のないように環境整備を継続します。
	2	職員の配置数は適切である	○		新規職員の採用も随時行い、基準に沿った配置を行っております。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		タイルカーペットを色分けすることで待機場所と勉強するスペースを分けています。事業所入口に2段の階段があり、足の不自由な児童の安全を見守りしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		整理整頓を含め消毒などもまめに行い、清潔化で、快適に過ごせる空間の提供しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常勤職員だけでなく非常勤職員も交えて実施しています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		課題の把握を行い、改善に向けての検討を行っていきます。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者様には、集計と回答を直接配布します。また、ホームページ上で公表しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	こどもプラスHD本部にて評価を実施していますが、完全な外部評価は行えておりません。	こどもプラスHD以外の外部評価も検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		運動や支援方法、安全面、虐待防止など、様々な視点での研修を定期的に行っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者、本人からのアセスメントを元にニーズを把握し、計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを活用して、毎年更新しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		相談支援事業所等とも情報共有を図り本人・保護者のニーズをくみ取りながら、児童発達支援計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		全職員が支援計画を確認し支援しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		常勤職員が中心となり、各支援員の長所を行かしたプログラム作成を行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		プログラムが固定化しないように、新しいプログラムを柔軟に取り入れています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動が中心ですが、児童の状況に応じて個別での支援を行う計画も作成しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に朝礼を行いその日の支援内容や役割分担、児童の状態の把握に努めています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日の出来事を職員間で共有できるように職員連絡ノートを活用したり、翌日の朝礼で、共有を図っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		児童の状態や支援方法をなどを記録にとることで児童の課題を明確にし支援に活用できるようにしています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		2か月に一度、モニタリングを実施し、計画の継続や修正など、見直しの判断を行っています。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が基本的には出席しますが、児童の状況や課題に合わせて上記以外の職員が出席することがあります。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		随時連携は図っており、研修会等にも積極的に参加しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	現在、医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	現在、医療的ケアが必要な児童の利用はありませんが、必要となった場合は連携を図っていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	現在、医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	現在、医療的ケアが必要な児童の利用はありませんが、必要となった場合は連携を図っていきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		送迎も含めて、園などもしっかり連携を図り、その日の体調なども含めて情報の共有、連携を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		学校や支援級担任とライン、メール、電話等で情報共有等図っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		随時連絡はとっており、研修等には積極的に参加しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	令和4年度はコロナ感染防止の為見送らせて頂きました。	交流できる企画の検討を実施していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		市の取り組みや吹田市事業所連絡会に継続して参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者様とは児童の課題等についてコミュニケーションを図り、情報共有がしやすい環境づくりを行っています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	保護者様からの相談は常時行っています。	保護者様からの相談は常時行っておりますが、ペアレントトレーニングは不十分のため、充実化に向けて改善を図っていきます。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必ず説明を行っており、必要な場合にも随時、説明を行っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		児童発達支援計画の作成後、保護者説明を行い、同意をいただいています。又、説明の際に変更等希望がありましたら、再度作成を行っています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		常日頃より、相談を受けた場合には、助言やサポートを行い、必要に応じては外部ともしっかり連携を図っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度は、コロナ感染防止の為保護者会等は開催できませんでした。	令和5年度は開催を予定しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談を受けた場合には、助言やサポートを行い、必要に応じて、外部ともしっかり連携を図っています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページにて活動の様子を報告しております。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		保護者様に、契約時に説明を行いお写真などに関しては事前に同意をいただいています。また、教室からの情報の流出のない対応を心がけています。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カード、拡大文字版・ルビ版などを作成し対応を行っています。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	令和4年度はコロナ感染防止の為見送らせて頂きました。	令和5年度は開催できるように検討していきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		契約時に、説明を行っています。	契約時に説明は行っていますが、完全周知できているかが課題であり、マニュアルの更新と共に書面や保護者会などで周知を図っていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を行っています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		通所前にアセスメントを行い、状況確認を行っています。毎年更新しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様よりアレルギーに関する情報は伺っています。	現在、医師の指示書までは頂けておりません。必要であれば指示書の提供を求めています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所内で事例をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待・権利擁護研修を毎年度実施し、虐待ゼロについての取り組みを行っています。また、吹田市やSSW等と連携しての対応を心がけています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束ゼロに向けての取り組みを行っており、身体拘束の実施はありません。	事業所だけでなく、法人全体で身体拘束ゼロに向けた取り組みを継続していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。